

## ちょっといい話

教える立場の人にぜひ実践してほしいのが「人に会う」「本を読む」「旅をする(現場へ行く)」。これらを通して様々な気づきを得、知識が増えることでその分の人生の選択肢が増えていく。(ライフネット生命会長・出口治明さん)

歌舞伎役者を見ていて思うんです。60代半ばぐらいが一番、芸に脂がのってくるんですね。今の私がその年代。まだ私はネタもすぐ覚えられる。新作にも挑戦したいし、これからですよ。(落語家・快楽亭ブラックさん)

## 「熊本地震」レポート

建設委員会では、先月、4月14日に発生した熊本地震被災地である熊本市や近隣市として人的・物的応援を実施した福岡市などを訪れ、防災視察を行いました。

熊本市内では、人口74万人に対して避難者数は最大で11万人を超え、避難所も267箇所を数えましたが、福岡市をはじめ国や全国からの懸命な応援も受け、9月15日に全避難所が解除となっています。この間、新たな避難所を開設し、学校の再開も比較的速やかに行われていました。

熊本市は、大雨・土砂災害への意識が高い一方、地震に対する備えの意識が比較的低い土地柄でもあります。課題として、避難所に配置する市職員

が不足したことや、救援物資の受け入れや配給する体制が不備であったことが挙げられていました。また、避難所に留まることが困難な高齢者や障がい者を受け入れる福祉避難所が被災してしまったこと、き裂等が入り通行可能な道路が少ない中、被災ゴミでさらに道路通行に支障が生じてしまったことなど、多くの災害対応の課題を抱えています。

これは、福岡市でお聞きしたことですが、熊本市や福岡市など全国の政令指定都市は、エリアごとにグループを組み災害時の応援の枠組みをつくっています。阪神淡路の時、よく関西広域連合という言葉を聞きましたが、備える体制としてやはりこのような都市同士の連携の仕組みはいざという時、頼りになるものです。熊本市の5つの区毎に各グループが発災直後から1か月以上、職員の応援などが行われたことは、被災地にとって大きな支えとなったものと思います。

さて、熊本市も1日も早い復旧復興への道筋をつけなければなりませんので、東日本大震災の仙台市の取り組みも参考に、役所内に復興部という新たな組織をつくり、生活再建や住宅再建など被災者を支援する業務を一括して行う体制が5月早々に立ち上げられました。特に、業者不足で進まない家屋の解体、国制度では助成が受けられない一部損壊家屋への援助、また、シンボルである熊本城の復旧など、多くの課題が山積みです。被災地に対し引き続きの支援を行いつつ、教訓を品川区の防災に生かしていきたいと思います。



# ワクながわく新聞 第123号

発行日：

平成28年11月15日(火)

発行者：

若林ひろき 品川区議会議員

ブログ：

<http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>



11月19日は「備蓄の日」災害に備えて日常備蓄を!

日常備蓄とは、特別な準備をすることなく、日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備えておく方法。食料品や生活用品を少し多めに購入し、日常の中での消費しつつ常に少し多めの状態をキープするように心がけます。食料品は、レトルト品や缶詰など、調理や加熱をしなくとも食べられるものを行い置きしておくと災害時にも役立ちます。

## 私の本棚

「一流の人は本気で怒る」  
(小宮一磨著/文芸書) その10

「怒る」と「叱る」を分けるなど不可能です。区別しようとすると背景には、「感情をぶつけることで相手に嫌われたくない」という気持ちが透けて見えます。双方に「甘え」がある。本当に相手のことを思ふなら、感情をむき出しにして、「正しい怒り」をぶつけるべきです。本気かどうかの問題だと思います。

そう思つたのは、PKOで選挙監視員としてカンボジアに行つた時のこと。着いてまず教わつたのが迫撃砲が飛んできたら一発目から二発目が来るまで必ず間があく、その間に窪地に身を伏せると。また、タイでは手榴弾が飛んできたら、ピンを抜いてレバーを握つて四秒後に爆発するから、絶対に投げ返さず手榴弾に足を向けて頭を遠ざけてうつぶせになれと。脚先は吹っ飛ぶかもしれないが、命は助かるだろうと。ちょっととしたことで命を失う世界では、指示や判断は本気で何かを伝えることに直結する。例え感情的な「怒り」にならうとも、怒号で指示を出すことは当然だろうと実感したのです。そして、戦場ではなくて平時の日常でも同じではないかと。本気で相手に何かを伝えることは、何よりも相手のことを考えていることです。(つづく)